

## 実践団体情報

記入日	西暦 2023 年 1 月 20 日 (2022 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	減災 Days
代表者名	細谷 真紀子
プラン全体のタイトル	幼児からスタートする切れ目ない防災教育 ~官・民・学連携で行う防災教育~ しぜんもぼくらも変身するよ! いのちをまもるものがたりと防災うんどう!
電話番号	080-1849-0606
メールアドレス	gensaidays@gmail.com
実践団体の説明	防災・減災活動は未来の笑顔の為にあるということを信念に、防災・減災を手段に人づくり・まちづくりに関わる活動を行っています。人とまちをつくる為に必要な防災・減災の視点・手段を基に、より良い未来の為のコミュニティづくりの為に様々な人、団体と共に防災教育を行っています。
所属メンバー	細谷真紀子・大泉勉・渡部いつみ・池田麻姫子・渡邊史・佐竹美穂・NHK 山形放送局
活動地域	東北地方・山形県中山町、山形県山形市
活動開始時期・結成時期	2017 年 9 月
過去の活動履歴・受賞歴	山形県内や東北地方を中心にコミュニティ（行政や自主防災会、各種団体等）に対する防災教育を行っています。

プラン全体の概要	プランの目的は「自分たちの未来を、自分たちで選択し、社会に関わる「視点・生きる力」を、防災教育を通じ身につけること」。発達の段階に添い主体的で能動的な資質能力を育成する為、興味関心から知識・技能を結び、表現する場を設けます。自らのいのちを守ることに對する探求心、防災減災活動に対する恐怖を育てない防災教育を実施します。
----------	---

## プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	園調整	教材検討	
5月		↓	
6月		仮教材作成	
7月		団体内教材確認・調整	
8月		↓	
9月		↓	
10月	日程調整	教材再調整・修正	
11月		団体内教材確認・調整	
12月	日程最終調整	実施教材プロトタイプ作成	
1月	実施①	動画配信準備	なかやま保育園
2月	実施②	報告準備	長崎幼稚園・こども芸術大学 認定こども園・動画配信開始
3月	実施まとめ	報告・次年度調整	報告会

プラン全体の反省点・課題・感想	<p>新型コロナ感染症への対応や、教育課程に沿うプログラムということを中心としたため、園にての実施（うんどろ・リズム・読み聞かせをベースにしたプログラム、また NHK 放送局との協働）が1月からの実施スタートとなったこと（開始当初に園の年間スケジュールに組み込むことができずに、社会的状況（園の立ち入り制限や実施者の県外移動などでの実施不可能期間等の感染症対策）に影響され、実施調整に時間がかかり、実施が年明けとなってしまった）</p>
今後の活動予定	<p>今年度の反省を生かし、3月に開催される連絡調整会で年間スケジュールへの組み込みを提案していく。実施に関しては事業に対する行政の予算化や他の社会人の参入を目指しプロボノ（企業や大学生）や町民（切れ目ない防災教育サポーターの養成）との協働を拡大し、子どもに関わる大人を増やしていく。プロトタイプの読み聞かせ教材をより広い人が利用できるようにバージョンアップしていく。</p>

## 実践したプランの内容と成果

記入日	西暦 2023 年 1 月 20 日 (2022 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	減災 Days
実践番号	11
タイトル	幼児からスタートする切れ目ない防災教育 ～官・民・学連携で行う防災教育～ しぜんもぼくらも変身するよ！ いのちをまもるものがたりと防災うんどう！
実践担当者名	細谷真紀子（実施責任者）・大泉勉・渡部いづみ・池田麻姫子・渡邊史・佐竹美穂・NHK 山形放送局

実践にかかった金額	約 15 万円 30 万円未満
実践の準備にかかった時間	数ヶ月
実践活動を実施した日時	西暦 2022 年 1 月 17 日～西暦 2023 年 2 月 28 日
実践の所要時間	1 時間 × 4 日（予定も含み）
実践の運営側で動いた人の人数	8 人
防災教育の対象者の属性	幼児/保育園児/幼稚園児
防災教育の対象者の人数	約 150 人
実践を行った都道府県と市区町村	山形県 中山町（2月実施調整中：山形市）
実践を行った具体的な場所	なかやま保育園・長崎幼稚園 こども芸術大学認定こども園（2月実施調整中）
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	作成にあたり：イラストレーター 実施にあたり：防災教育コーディネーター・スクリーン・プロジェクター・PC

達成目標	すでに幼児教育課程にある「読み聞かせ」「うんどう」の視点を活かした防災体験プログラムを実施し、防災（教育や防災資源（災害知見や避難情報））を怖いものにせず、自らのいのちを守るための心強い味方であり知識・技能であることを体験から学んでいく基礎的なところづくりを熟成する。	
どの力を身につけよ	知識・技能	大いに

うとしましたか？	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
実践内容・方法	<p>【導入】NHK 防災教育のキャラクターでもある「こわがりヒーロー」の歌、災害と恵みの存在に気付く絵本（宮城県防災士会作成「リオン」）、当団体で作成した「警告音」に関する音つきの物語「いのちをまもる“おと”」を読み聞かせ等、導入で実施した。</p> <p>【展開】うんどうとして身を守る方法を身の回りにあるものに「変身する」という視点で、楽しく身体を動かしながら学んだ。</p> <p>【まとめ】自らのいのちを守る大切さと子どもたちを守ってくれる大人の存在があるという安心の中に生活していることを認知し、災害時には自分たちはできた！というところを思い出し、落ち着いて行動していく。次の防災教育のステップ1年生への想像力を持つ。</p>	
		
得られた成果	<p>「地球も自分も変身する」という気づきを「読み聞かせ」「うんどう」「変身」という身近な体験を通じ、防災教育は災害と同じイメージで怖いことを学ぶと感じていたが、子どもたちは防災力という違うイメージで生きる力を育む一つのステップを着実に踏むことができた。ブレ1年生となる子どもたちには、新生活への不安を防災教育との繋がりにから払拭するというセルフリスクマネジメントとしても防災教育は役立った。これは同じ町内全園で同じプログラムを実施していること（それを子どもたちに伝えていること）も大きな要因とを感じる。</p> <p>立ち会った大人に対しての新しい気づき、防災への興味を引き出せたことはねらいの一つでもあったが、感想からその効果を感じられた。</p>	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦勞・工夫	課題・苦勞としては、コロナ禍ということもあり、多くの防災教育サ	

	<p>ポーターの力を借りることが叶わなかった。園や学校の内部人材ではなく、外部人材のデメリットとしては、やはり社会情勢や管理者の意識に左右される部分であったが、工夫として、その流動的な部分を補ってくるのが、今回の防災教育がまちづくりの総合計画と連動していること、学びの視点として学校課題の解消に寄与していること、また切れ目ない子どもたちの発達・防災教育を真剣に議論できる官・民・学連携の連絡調整会議の存在であったと感じる。</p>
--	---

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	NHK 山形放送局 経営管理企画センター
関係者の説明	防災教育（地域貢献事業）
関係者の連絡先	023-625-9522

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	
伝えたい内容	<p>イベント要素や単発的な視点、防災教育の押し付けではなく、発達段階と教育課程にそって、無理なく教育現場で取り入れやすい形で防災教育を提供し、こころを育むことができるということ。また次段階の教育や家庭・地域の防災教育に繋ぐこともできる日常生活に役立つ力としての防災力を育めるということ。</p>